

牧草と園藝



緑化植生シリーズ(3)

芝生—緑を楽しみましょう—



芝生は1度播種しますと10年でも20年でも（イギリス等の歴史の古い国では数百年も）美しい状態で維持することが可能です。従って芝生を作り、長年にわたってその美しいみどりを楽しむためには一作るといふ感覚の他に充分な手入れを含む一時間をかけて育てるといふ気が必要になってきます。

芝生の育て方の要点

- ①まず芝草が生育できる根本的な条件をととのえることが大切です。（日当たりが良いこと）（土壌の通水気性が良いこと）（土壌にある程度養分のあること）（雑草等を取り除いた清浄な土地であること）
- ②芝生の利用目的と管理（手入れ）の可能度合い、それに①の根本的な条件のととのえ具合によって、最も適する草種・品種を選定します。—第1表参照—
尚、面積が広く土壌条件が不均一な場合や、不良条件

が重なる場合は、それ等に適應できる草種・品種の混播が適します。

③種子播きに当っては、均一な草生を早く確立することが大切で、播種時期としては春、晩夏が適します。播種ムラを防ぐためには種子を3等分し、それぞれを全体に播くと良いでしょう。話が前後してしまいましたが、発芽率・発芽勢の高い優良種子を播くことが最も重要です。

④1～2週間で出芽し、徐々に緑が濃くなってきます。この時期から通常雑草も出てきますので、手取り除草あるいは除草剤を利用して取り除きます。

これから先ず一と芝草と雑草の競合が始まります。芝生は長年にわたって人為的に同一植生を維持するわけで、そこに植物生態学的な難かしさがあります。要するに美しい芝生を維持してゆくためには、芝草の生育がより優勢となるような管理を心がけることが大切になります。

具体的には栄養分（肥料）の補給と刈込みが主体となり、両者のバランスがとれていることと、施肥にしても刈込みにしても頻度をより高めることが芝草の生育を良好にします。

次に西洋芝生は比較的暑さに弱く、又旱魃にも弱い傾向にあります。ですから夏期高温旱魃時には—造成時は勿論—適度な灌水が必要になります。

⑤芝生の土が踏みかためられますと芝生の生育が衰えてきます。そこで1年に1回はフォーク等で10^分位の深さにスパイクング（穿孔作業）を実施します。通気と排水が良くなって芝草の根張りが良くなり、いつまでも若々しい美しい芝生を育てることができます。

寒地・高冷地 芝生用草種の品種特性

〈第1表〉

草種名	品種名	葉色	葉幅	刈高	ターフの質	備考
クリーピングベントグラス	ベントクロス	濃	細	低	極良	発芽早く、耐寒性大、ゴルフ(G)
	シーサイド	淡	細	低	極良	ゴルフ(G)
コロニアルベントグラス	ハイランド	青緑		高低	良	高原気候に適す。ゴルフ(F)
	アストリア	濃	細	低	優良	ゴルフ(G)、冬枯れに強い。
ケンタッキーブルーグラス	フィルキング	濃		中高	極良	病害に極めて強い、暖地適應性大
	メリオン	濃	広	低	極良	銹病以外は強い。
	ゴルフ	濃	広	高低	良	競技場、ゴルフ(F)に適す。
	ベンスター	濃		高低	良	混播適應性大
	デンマーク・コモン	淡		高	良	土壌適應性大
クリーピングレッドフェスク	パロン	濃	広	低	優良	張芝用に最適
	ナゲュット	濃	広	低	優良	発芽早い、公園・学校に適す。
	ペンローン	淡		高低	優良	耐病、耐陰性大
	イラヒー	濃	細	高	良	生育早く耐湿性有り。
チューイングフェスク	カナディアン	濃	広	高	良	土壌適應性大
	ゴルフロード	濃	細	高	良	砂質土壌向、耐塩性有り。
ペレニアルライグラス	ハイライト	濃		高低	優良	土壌適應性大、ゴルフ(F)
	マンハッタン	鮮緑	広	高低	優良	初期生育・再生極めて旺盛、ゴルフ(F)T